

熊本県立球磨支援学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標
1 児童生徒一人一人の能力や適性に応じた教育活動を実践する。
2 互いに励まし助け合い、たくましく生き抜く児童生徒を育成する。
3 社会的自立や将来の豊かな生活に向けての知識・技能・態度を育てる。

2 本年度の重点目標
1 一人一人の教育的ニーズを把握し、発達や障がいに応じた教育の推進 (1) 児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 (2) 危機管理の徹底、安全・安心を守る教育の推進
2 基礎的な学力の向上と健康で明るい生活を送るための調和のとれた心身の育成 (1) 人権尊重、人権教育の推進 (2) いじめ防止に向けた取組の強化 (3) 性に関する指導の充実
3 将来の自立と社会参加を目指したキャリア教育の推進と共生社会の実現 (1) キャリア教育の推進と進路支援の充実 (2) 交流及び共同学習の充実
4 教職員の専門性・資質・指導力の向上と組織的・計画的なカリキュラムマネジメントの推進 (1) 教科指導や自立活動、日常生活の指導等の専門性の向上 (2) ICT教育の充実・実践 (3) 働き方改革における効果的な教育活動 (4) 不祥事防止の徹底(児童生徒・保護者に寄り添った教育活動)
5 家庭、地域、関係機関との連携した教育活動の充実 (1) 保護者・地域社会から愛され支えられるパートナーシップ、PTA活動の充実 (2) 関係機関とのネットワーク強化及び地域支援(センター的役割)の充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針の具現化	学校教育目標及び重点目標を意識した実践ができたか	職員一人一人が組織の一員としての意識を高め、重点目標を踏まえた日々の実践に努める。	・学校教育目標及び本年度の重点目標について共通認識を図る。 ・業績評価の面談等において、重点事項を踏まえた目標になっているか確認を行う。 ・各学部、分掌部が昨年度の課題を整理し、重点目標の達成に向けた取組に反映させる。	A	・年度初めの職員会議において共通理解を図り、学校教育目標に沿った「めざす学校の姿」及び各学部「めざす児童生徒像」を設定し、教育活動を実践した。 ・職員一人一人が業績評価において、本年度の重点事項を踏まえた目標を設定し、日々の実践に努めた。 ・前年度の「課題と成果」を基に、今年度の重点目標達成に向けた分掌部運営に取り組むことができた。
	働き方改革の推進	学校全体で働き方改革を推進することができたか	・月45時間以上の超過勤務者の割合を15%以下にする。 ・年次有給休暇の取得日数の学校平均を	・労働安全衛生委員会で勤務実態を把握し、具体的な改善策を検討し、全職員に提案、実行する。 ・職員朝会等で取得促進の呼びかけを定	A	・月45時間以上の超過勤務者の割合が15%以下だったのは3ヶ月のみであった(令和5年12月末現在) ・年次有給休暇の取得日数の学校平均は13.8日であっ

			15日以上にする。	期的に行う。		た。(令和6年2月8日現在)しかし、夏季特別休暇は職員全員取得している。
	業務改善	学校全体で業務改善に取り組むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や会議の精選と業務のスリム化を図る。 ・ICTを活用した業務の効率化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真に必要なかどうか等の視点で行事の精選や内容を見直し、準備の簡素化等を行う。 ・各学部、分掌部において、分掌業務の見直し、適正な業務分担を行う。 ・ゆうnetを活用した職員間の情報共有を定着させる。 ・保護者向けのGoogle Classroomの運用を開始し、文書の配付、アンケートの実施を行う。 ・アプリを導入し、授業準備の効率化、職員の負担軽減を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体朝会を週2回(昨年度)から週1回に減らし、学部朝会の時間を確保。児童生徒の情報共有が充実した。 ・新型コロナの5類移行に伴いすべての行事をコロナ禍前に戻すのではなく、時間の短縮等を検討しスリム化を図った。 ・職員への情報共有はゆうネットの活用が定着し、周知に係る時間も大幅に削減できた。 ・9月より段階的な運用を開始。文書の印刷、配付の業務負担の軽減、及びペーパーレス化を図ることができた。 ・学部学年によりクラスルームに参加していない保護者がいるため、参加を呼びかける。
授業の充実	ICT機器を効果的に活用した授業実践の探究	学部ごとにICT機器をどのような場面で活用できるのかを話し合い、個別最適化な学びに繋げることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のICT機器に関する専門性の向上を目指す。 ・ICT機器を活用した授業実践を蓄積する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用方法について、外部講師招へい研修を行う。 ・分掌部会・全体研修を通して、探究の目的について共有を図る。 ・学部研において、児童生徒の困っていること・身に付けたい力等を共有する。 ・ICT機器の活用方法や児童生徒の変容について事例検討を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に外部講師を招聘し、「ロイロノートスクール」についての研修を実施。活用場面や授業実践についての理解を深めた。 ・情報管理委員会と連携しロイロノートスクールを試行的に導入。それぞれの学部で活用する場面や授業実践を深めることができた。 ・ロイロノートスクールの導入により、児童生徒がiPadを活用する場面が増え、情報活用能力が全体的に向上したことを確認できた。また教師においては授業準備の負担軽減が図られた。 ・次年度以降の導入について、今年度の実績、学習効果等を挙げながら検討する必要がある。

	学習指導の改善とカリキュラムマネジメントにつながる学習評価の充実	全職員がカリキュラムマネジメントを意識し、教育課程の編成及び改善に活用することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価（観点別評価、授業評価）を行う。 ・全職員で教育課程の編成及び改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価から目標や学習内容、学習グループ、授業等の検討を行う。 ・個別の指導計画や単元配列表等のデータを活用して各学年などの小集団で教育課程について検討を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部で学習評価を基に次年度の教育課程について話し合いを行った。 ・児童生徒の実態を出し合い、将来に繋がる教育課程の編成について話し合いを行った。教科別の指導と、合わせた指導とを比較し、効果的な指導の在り方を議論したり、自立活動の指導形態や時間について話し合いを行うことができた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	キャリア教育の視点を深めることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育で育てたい力を各教科領域での取り扱い内容毎に整理し、授業作りに生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点で整理した育てたい力一覧表を年度初めに職員に提示し、研修等で伝えることで、小、中、高一貫したキャリア教育の推進を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に「育てたい力一覧表」を職員に提示し、学校活動全般にキャリア教育の視点を持って取り組むことを確認することができた。 ・進路だよりで「高等部卒業までにつけてたい力」について記載し、保護者への啓発を行うことができた。
	進路支援の充実	一人ひとりの児童生徒に応じた進路指導ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・職員向けの進路に係る情報提供を充実させる。 ・職員及び保護者を対とした進路研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者が事業所の仕事内容や条件を分かりやすく閲覧できる「事業所ガイドブック」を改良し、現場実習の事前学習や事後学習、進路面談で活用する。 ・卒業後の進路先について職員研修を行い、職員の理解を深めることで、生徒自身が自分で納得し進路決定できる一助とする。 ・PTA進路・研修部と連携し、保護者のニーズに応じた保護者向け研修会を実施する。 ・高等部3年生の進路決定においては、ケース会議を行い、チームとして生徒の 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者ガイドブックを高等部現場実習ごとに更新し、進路面談等で進路先の情報提供を詳しく行うことができた。 ・職員向け「高等部卒業後の進路について」「卒業後の働く生活を描くセミナー（熊大附特主催のオンライン研修への参加）」等の研修を実施。児童生徒の進路について職員の理解を深めることができた。 ・PTA行事「すまいるサロン」において、PTAと連携し、実習先への見学を行うことができた。 ・関係機関と連携し、進路先の決定につながった。また、卒業後の相談先へこれからつないでいく。

				適性と進路先を検討する。		
生徒(生活)指導	問題事案、問題行動の未然防止	生徒指導等に関わる情報を共有し、全職員の共通理解のもとで生徒指導を実施することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で一貫した生徒指導ができるよう、全職員の共通理解を図る。 ・生徒指導上の問題事案等について、職員間で情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や全体朝会等を活用し、生徒指導に関する指導事案や指導例を周知する。 ・分掌部会で生徒指導に関する情報共有を行い、職員間での共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導提要の改訂のポイントについて、全職員に周知し一貫した生徒指導体制を共通理解することができた。 ・分掌部会において毎回、生徒指導に係る問題事案について情報共有を行ったことで、大きな事案になることを未然に防ぐことができた。
	安全な登下校指導及び関係機関との連携	児童生徒が安全・安心に登下校を行う体制を構築することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・自力通学生に対する登下校指導と通学路の安全確認を徹底する。 ・利用する児童生徒が安心・安全に通学バスを利用できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な登下校指導に合わせ、警察署と連携した登下校指導を行う。 ・バス会社との情報交換会、学期ごとの乗車指導、保護者向けの説明会を実施し、運行における安心・安全な乗車体制を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期1回、交通安全指導及び挨拶運動を行った。学校、警察、保護者、児童生徒会と連携を図り、児童生徒が安心・安全に通学できる体制を構築することができた。 ・学期1回、通学バスの乗車指導を実施し、利用者の乗車の様子を適宜把握することができた。また、バス会社とも情報を共有し、安心・安全に運行することができた。
人権教育の推進	人権教育に関する取組	人権教育の推進はできたか 全職員の意識が高まり、人権意識が高まったか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で人権学習を推進する体制を整える。 ・各学部の発達段階に応じた実態に即した人権教育を実践する。 ・校内外の研修会へ積極的に参加すること等により、全職員の基本的認識の深化を図る。 ・実践的指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動において、各学部の知的側面(人権問題を知ること)、価値的・態度的側面(自分も他者も大切に思う心)、技能的側面(気持ちを適切に伝え正しく行動する)を全職員が意識する。 ・職員が互いの教育実践上の課題等について日常的に相談し合えるように自由な意見交換のできる研修等の実施により人権問題に対して正しい理解を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に「球磨支援学校人権教育の視点」を全職員で共有した上で各学部での取組を進めることができた。 ・全体研修において「第三次とりまとめ」を踏まえた授業づくりについて基本的な事項の確認を行った。事項の内容を各学部の実践にどのように取り入れるか検討を行い、授業づくりに生かすことができた。 ・講師招聘による同和問題(部落差別)についての研修では当事者の話を聞くことで、現在も続く同和問題(部落差別)の実際について理解を深めることができた。
	命を大切に育む指	自他の命を大切に育む心や人権を尊重する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・人権が尊重される人間関係づくり、人 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科等の授業で、「自己肯定 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会で人権について、人権とは何かという話をした。

	導	を育むことができたか	権が尊重される学習活動、人権が尊重される環境づくりを柱にして、人権が尊重されている教育の場としての学校を目指す。	感を育む支援」、「自己選択・決定の場」等の工夫を行うことにより、「人権が尊重される授業づくり」を行う。		また各学部での人権学習を通して、段階に応じて自分を大切にすること、周りの人を大切にすることについて学習を行った。 ・児童生徒の実態に応じた指導については更に工夫が必要である。
いじめの防止等	いじめ問題の未然防止対策	児童生徒の実態に応じた実態把握と様子観察を日頃から行うことができたか	・日頃から児童生徒の様子の変化に気づけるようにする。 ・いじめの起りにくい環境や状況をつくる。	・ストレスマネジメント、カウンセリング等の視点をもって児童生徒と関わるようにする。 ・全校児童生徒のアンケート調査結果を活用し、児童生徒からの発信を受けとめる体制や相談しやすい環境作りを行う。	A	・児童生徒の様子を観察を日常的に行う大切さを職員に周知した。また、スクールカウンセラーの活用についても職員全体に周知し、必要に応じて活用することができた。 ・1学期に小中学部の職員向けと高等部の生徒向けのアンケートを実施。いじめ問題の実態把握に努めた。2学期は、県公立学校「心のアンケート」を実施し、いじめ問題の把握を行った。
	いじめ問題の組織的対応	いじめ問題について組織的かつ継続的な対応に取り組むことができたか	・いじめ問題に対する職員の感度を高め、いじめ問題に対する対応を組織的に行う。 ・いじめ問題について原因や背景、状況等を把握し、当事者間の継続的な指導支援を行う。	・校内研修を行い、いじめ問題に係る組織的対応の重要性について共通理解を図る。 ・いじめ防止対策委員会に対して適切な対応や、解消に向けた継続的な取組等について確認し、必要に応じて職員に情報共有する。	B	・いじめ問題未然防止に関する研修を実施。いじめ問題に対する組織的対応や情報集約担当者の業務についての説明を行った。 ・校内のアンケートの内容や集計体制等について、外部専門家の意見も交えながらアンケートの有用性を高めることができた。不登校や教室で授業を受けることが難しい生徒に対する支援の在り方について外部専門家に意見を伺っていく必要がある。
地域支援	センター的機能の充実	人吉球磨地域の特別支援教育の拠点として、地域へ向けて積極的な発信と取組の充実を図ることができたか	・地域の学校等や関係機関へ本校の役割や特別支援教育の情報を積極的に発信する。	・「球磨支援通信」の内容をさらに充実させる。 ・巡回相談や研修等様々な機会において巡回相談等のさらなる活用について周知し、地域の特別支援教育の充実を図る。 ・適切な就学・進学指導が	A	・3号まで発行している。ケース会議の進め方や進路に関する事など、幅広く情報提供することができた。 ・巡回相談の活用について周知を進めたところ、初めて特別支援学級在籍児童の保護者に向けた研修依頼があった。今後様々な場面で啓発していく。 ・小学校（小学部）

			<ul style="list-style-type: none"> ・本校コーディネーター及び職員の専門性向上を図る。 	<p>行われるよう、様々な場面で進路指導に関しての理解・啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの巡回相談等への同行により、対応についての専門性を高める。 ・校内研修等の実施により、本校教職員の専門性向上を図る。 		<p>就学へ向けての年中児段階での教育相談が定着してきており、相談件数も増えている。一方で、中学校（中学部）進学に係る相談は小学6年生になってからがほとんどで、早めの相談に至っていない。今後も小学5年生からの相談を呼び掛けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談への同行は難しかったが、新任コーディネーターと一緒に高等学校エリア会議に参加し、人吉球磨地域の高等学校の現状について共通理解を図ることができた。また、分掌部会での情報提供をすることで、経験が浅いコーディネーターへも巡回相談等への実情を伝えることができた。今後も可能な範囲で同行での巡回相談等を進めていく。 ・年度初めに「トランスファーと摂食」に関する研修を実施。また、授業研究会に合わせて研修の機会を持つことができた学部があった。今後は全ての学部で授業検討等の機会を持つことができるよう、他の分掌部と連携していく。
	交流及び共同学習の充実	各学部の実状に合わせて、地域との交流及び共同学習の充実を図ることができたか	来年度の校舎移転を見据え、近隣の学校との学校間交流の充実を図り、相互の児童生徒が目的に沿った交流及び共同学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会を年2回実施し、年間における学校間交流の内容の検討や年度末の反省を行う。 ・交流校と事前に打ち合わせを行い、直接交流や間接交流など、各学部の実状に合わせた学習を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・5月と2月の2回で各学部において担当者間での打ち合わせを行った。1回目に内容や年間の計画を確認し、交流を実施、2回目に年間の反省や次年度に向けて意見を交わすことができた。 ・担当者会や、事前の打ち合わせを行ったことで、各学部の実情に合った取組を行うことができた。
保健安全管理	学校保健の充実	う歯及び歯周疾患の予防に向けた指導の充実と歯科受診等の家庭への啓発が図れたか	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と養護教諭が連携し、歯磨きの習慣化に向けた指導や歯周疾患予防に向けた指導を、歯 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、11月に歯と口の健康に関する情報を職員・家庭に知らせる ・歯ブラシの 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、11月に歯と口の健康に関する情報を、ほけんだより等で職員・保護者へ発信。また、歯ブラシの交換時期も、ほけんだよりで知ら

		<p>性に関する指導の充実が図れたか</p>	<p>と口の健康週間等を活用し取り組む。 ・歯科検診事後指導（受診率のアップ）を行うとともに、予防的受診についても情報提供し、家庭と連携した口腔ケアを実施する。</p> <p>・「あいうべ体操」に全校児童生徒で取り組んでいく。</p> <p>・「性に関するアンケート」（保護者向け、教員向け）の分析結果を反映させ、児童生徒の生活年齢や発達段階を考慮した指導を行い、目標の達成度、理解度、改善点等を性教育推進委員会にて検討する。</p> <p>・LGBTをはじめとした性の多様性や性加害、性被害について、職員の理解促進を図るための研修を年1回以上実施する。</p>	<p>交換時期をほけんだより等で知らせたり、自分で判断できる児童生徒へは歯みがきをする場所へ掲示したりすることで気づきや行動を促す。</p> <p>・歯科検診の結果を受け、受診勧告を行うとともに歯科指導に活かす。</p> <p>・ほけんだよりを活用して予防的ケアについて情報提供していく。</p> <p>・「あいうべ体操」の普及に努める。</p> <p>・各学部新1年生と小学部新4年生の保護者対象のアンケート調査を実施し、各担任へ結果を報告する。次年度の年間計画へ生かす。</p> <p>・性教育推進委員会にてアンケート調査の分析を行い、取組の達成状況を確認する。</p> <p>・正しい理解を図るための情報提供や、性に関する指導を行う上での職員の悩みや要望に関するアンケート調査等を実施する。</p>		<p>せる、個別に「歯ブラシ交換お知らせカード」を配付する、各クラスでの指導時に一緒に確認するなどしながら促すことができた。</p> <p>・歯科検診後の受診率は48.8%（昨年度53.3%）で昨年度より低く、歯と口腔の健康に関する啓発が十分でなかった。</p> <p>・「あいうべ体操」について、ほけんだよりやポスターで、各家庭・各学部へ周知したが、継続した取組にはつながっていない。</p> <p>・保護者への「性に関するアンケート」を実施し、結果を担当に報告した。性に関する指導の年間計画や取り扱う内容の見直しを各学部で行っている。</p> <p>・年4回性教育推進委員会を実施し、各学部の取組の状況について報告を行った。学部間の系統性や取り扱う内容については今後も検討が必要である。</p> <p>・アンケートの実施方法や年間計画への生かし方について今後検討する必要がある。</p> <p>・「せいしとらんし熊本」から講師をお招きし、「多様な性」をテーマに職員研修を実施し、職員の理解促進を図った。</p>
<p>学校安全の充実</p>	<p>安全管理、生活安全に関する取組の充実による安全安心な学校づくりができたか</p>	<p>・毎月の安全点検の確実な実施と、その後の迅速な対応を目指す。</p>	<p>・毎月安全点検及びデータベースへの記入について呼び掛けを実施する。</p> <p>・安全点検で異常が見つかった際は、安全点検担当と事務部で連携</p>	<p>B</p>	<p>・月始めに安全点検実施をゆうnetに掲載したことで、全職員への周知、意識付けをすることができた。</p> <p>・安全点検で異常が見つかった際は、速やかに事務に報告し修繕、または今後の対応を検討すること</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生等の緊急時の対応について、職員が十分に理解し適切に対応できるよう、マニュアルの確認、訓練の実施を行う。 ・職員の危機管理意識の向上を目指し、ヒヤリハット報告の目標件数を年間100件とする。 	<ul style="list-style-type: none"> し、迅速に対応（調査・修繕、業者依頼等）する。 ・事前に避難経路、人員報告、通報等の最重点事項について、全職員で共通理解を図る。 ・実施後はアンケートを行い、課題点や改善点を共有する。 ・職員に積極的なヒヤリハット報告を促す。 ・ゆうnetへの掲載や朝会等を通して全職員での情報共有を行う。 ・年2回、ヒヤリハット事例の分析を行い、傾向や具体的対策について報告する機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ができた。 ・年度初めに危機管理マニュアルについて職員研修を行い、共通理解を図った。 ・訓練後の事後アンケートを実施し、報告の仕方や残留児童生徒の確認方法等について見直しを行っている。移転へ向けても見直しを必要がある。 ・ヒヤリハット報告の目標件数である年間100件を目指し、朝会等で職員に積極的なヒヤリハット報告を促していく必要がある。 ・ゆうnetへの掲載や朝会等を通して全職員に情報共有を行うことができた。 ・前期のヒヤリハット事例の分析を行うことで傾向や具体的対策について報告することができた。後期のヒヤリハット事例についても分析を行う。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニティ・スクールによる地域との連携	コミュニティ・スクールの円滑な運営ができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会において、学校評価や本校の取組の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を学期1回、年3回実施する。 ・授業参観や協議を実施し、本校の教育活動について意見交換や評価等を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は年2回の実施。そのうちの1回は、「安全総合支援事業」の公開避難訓練を御参観いただき、委員のお立場から貴重な御意見・御助言をいただいた。 ・委員の方々には本校の取組を理解していただき、文化祭をはじめ様々な行事において御協力いただいている。
	防災教育の充実	地域・関係機関と連携した防災教育を推進することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、関係機関等と連携し、防災教育の充実を図るとともに、地域に向けて本校の取組の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開避難訓練を実施し、訓練後の意見交換を行う。 ・防災教育の取組を学校ホームページや通信で発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に公開避難訓練を実施した。近隣消防署、近隣小中学校、多良木町役場、学校運営協議会委員等、多くの方に参観していただき、意見交換ができた。様々な視点からの気付きや助言をいただくことができた。移転に伴い、多良木中と連携して防災訓練について考えていく必要がある。 ・防災学習や訓練の様子をホームページ

						に掲載した。防災だよりを発行し、本校の取組や防災に関する情報の発信を行った。
保護者・地域社会から愛され支えられるパートナーシップの充実	保護者、地域から信頼される学校づくりを推進することができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページのアクセス数増加を目指す。 ・地域、関係機関への広報を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事や学習活動の風景、地域支援や進路に関する情報等ホームページの内容の充実と積極的な情報発信を図る。 ・ポスター等を作成して、地域、関係機関等に本校の教育活動を広報していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部をはじめ、「校長室から」のコーナーにおいて定期的に積極的な情報発信を行っている。 ・年度初めからのアクセス数は46,135件である(令和6年1月31日現在)。 ・児童生徒が学習活動で作った作品や作業製品を地域のイベント等で展示し、本校の教育活動の広報を行ったことで、地域からの本校への関心を高めることができた。 	
町内小中学校との交流の充実	令和6年度多良木高校跡地への移転に向けた学校間交流を推進することができたか	・隣接される多良木中学校との交流の充実を図る。	・移転後を意識した交流のあり方等について学校間で意見交換を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部及び中学部では通常の交流だけでなく、相互の文化祭において作品展示による間接交流を行った。 ・次年度の移転に向けて、2月末に多良木中学校職員と本校職員合同の研修(意見交換)を実施。職員間の交流を行うことができた。次年度の連携につながる契機を得ることができた。 	

※評価項目の数・内容については、各学校の実態に合わせ自由に設定してください。
(複数枚になってもかまいませんが、重要度の高いものに絞り、項目を整理して記入してください。)

4 学校関係者評価

- 日頃の取組を知ることができた。学校移転がスムーズに進められることを願っている。
- 青年団としてサーカス事業の手伝いは、貴重な経験となった。今後、移転にあたっても青年団として協力をしていきたい。
- 新校舎での通学路についてはどのようになるか？現在、隣接する多良木中学校の登校にあたって、送迎車による渋滞が課題になっている。通学路について関係機関との連携が必要になると考えている。
- 社会人になるために、保護者も含めたところでの包括的な支援が必要だと感じている。進路先の選定にあたっては見極めが大事であり、地域でのサポート体制の充実を図りながら目指す将来像を共通理解し、進路先を共に見極めていきたいと考える。
- 居住地校交流、ICT活用について今後の展開を期待したい。
- 学校評価における交流に関する項目について、PTAとしても、多良木中との交流を考えていきたい。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標に対する評価

児童生徒の自立と社会参加を見据えた学校教育目標の達成を目指し、各学部では学部目標やそれぞれ掲げる「めざす児童・生徒像」に基づき、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実践に全職員で取り組んだ。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、引き続き感染対策や行事における参加者制限等を柔軟に行いながら教育活動を進めつつ、コロナ禍に失われた生活経験、学習経験の機会を児童生徒に保障できるよう努めてきた。本年度の学校評価保護者アンケートにおける評価項目「子供は学校生活を楽しんでいる」の回答「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が95%、「学校は、卒業後や将来を見通した進路指導を行っている」の回答「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が89.8%という高評価が得られ、概ね目標は達成できたと考える。

2 本年度の重点目標に対する評価

- 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を一層図るために、研究部を中心に教材展示週間を設定し、学部を超えて相互に学び合う機会をとおして、職員の授業改善及び指導力の向上に繋げることができた。
- 人権教育を推進するために、本校が定める「球磨支援学校人権教育の視点」について年度初めに職員間で共通理解を図り、様々な取組を行ってきた。教師においては人権意識・人権感覚の一層の向上を目指した研修を実施、児童生徒においては、特別の教科道徳をはじめ、各教科の指導に人権教育の視点をおいた授業を実施した。学校全体でいじめ案件はゼロであり、他者を思いやる気持ち、自分を大切にすることを大切に、人権感覚の基盤の育成が順調になされた結果であると考えられる。
- 交流及び共同学習については、感染症の流行に伴い、対面での直接交流からオンライン交流に変更が必要な状況こそあったが、管内の小学校・中学校・高等学校と、オンライン交流、作品による交流、農業体験交流等を実施することができた。校舎移転を見据え、同町内の学校との交流及び共同学習についても内容の充実を図ることができ、昨年以上に交流及び共同学習を充実させることができた。
- ICT教育の充実・実践においては、授業支援クラウド「ロイロノートスクール」の試験的導入により、学校全体で大きく前進することができた。支援学校の児童生徒が活用しやすいロイロノートスクールの導入を経て、授業内での児童生徒のタブレット端末の活用が進み、思考力・表現力の向上が授業後のワークシートや制作物等から確認できている。また、教職員のICT活用に関しても計画的な研修を通して躍進し、学校全体として情報活用能力の育成を行うことができた。
- 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動については、新校舎移転に関して、移転記念行事「天草サーカス公演」における地域との連携・協力、また高等部農園芸班が育てた花を多良木町役場、多良木郵便局をはじめ、近隣の公共施設に贈呈する活動など、様々な取組を経て本校への理解・啓発を進めることができた。

6 次年度への課題・改善方策

本校は新年度、新校舎移転という大きなターニングポイントを迎え、児童生徒・保護者・職員にとって環境の変化が大きな一年となる。そのような中でも子どもたちが、安心安全に学校生活を送ることができるよう、一つ一つ丁寧に準備業務を行った上で移転計画を進めていく。来年度以降も、校訓「元気で 仲よく 根気よく」を柱に、教職員においては更なる人権感覚の涵養を図り、今年度進めてきたICT教育の一層の充実を目指し、教職員の情報活用能力を向上させ、児童生徒の学習活動において還元していきたい。課題として、校務の情報化が進んだものの、未だに業務の縮減や勤務時間外の業務削減に繋がっていない現状がある。計画的な業務改善を引き続き行うだけでなく、業務全体を改めて点検し、柔軟に変更や調整を行いながら持続可能な業務形態を目指し、今年度以上に職員の負担軽減に繋がるような働き方改革を実現していきたい。